

答問書

和書門類		二五二二	九六二	三冊
		九	六	架

內閣文庫		和書類	二五二二	九六二	三冊
			九	六	架

內閣文庫		番號	和 25122
		冊數	3 (3)
		函號	190 405



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





祖本先生問書下



何事も理窟を漸りゆゑと云ふは、其に入事、其成は、
まがト筈を稽疑するは、由相身なり。稽疑するは、
たむらふ事、その字なり。今世間、その孝子、その好見は、
其無の先、其吉凶は、合せず、合せず、其のたむらふ

明日死しむを今日悔しむは知れぬ何の益を成し事なり。古
ト並ハたれハ言ハれた。多クハ岐路^{きろ}の道にまゝ。たゞ行て去
りて。在りて能く事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事
不申の時。ト並を以て鬼縛^{きり}の同ひり。是よりして行む
べき時。先達^{さき}の今年。吉凶を知り。乃理見て事。乃理見て事
事。事。是を稽疑^{かぎ}とす。又國物^{くにもの}成就^{じゆうじゆ}とす。事相見
ハ。國物^{くにもの}とす。事と始めり。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事
民此^{たみ}の。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事
今迄^{いま}の事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事

世力を合む人幸し。何れも勤きハ成就。勤めざれば
成就^{じゆうじゆ}なむ。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事
ら^らる。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事
成就^{じゆうじゆ}し。是を國物^{くにもの}成就^{じゆうじゆ}とす。乃理見て事。乃理見て事
事。人智^{ひとち}人力の^{ひとち}の。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事
活地^{かち}なり。天地^{てんち}と人との^{ひと}の。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事
無盡^{むじん}ハ。變動^{へんどう}あり。先達^{さき}の計^{けい}知り。乃理見て事。乃理見て事
事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事
カ^カ。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事。乃理見て事

取けを成就しし。人智人力のさき不
場。いたりして。天子の天命を知りて。心どうじうに。誠
が。成るべき道を勤りぬ。そのはく。天地鬼神のたまげを
得りぬ。とあるが。人さるる智し思し。事なりぬ。疑ひし心と
さうありて。もげしゆのなり。此しひりか。かすうなりぬ。さう
破きし。成就しし。なりぬ。たし。此の。あま。なりぬ。此し
よ。し。さ。其の。筋。ゆ。なりぬ。随。か。智。力を。そ。し。なりぬ。
大洋。し。押。出。し。風。波。不。達。り。し。か。智。力。も。果。佛。神。の
力を。頼。り。り。か。地。事。さ。し。い。され。佛。神。の。力を。頼。り。ぬ。

計し。博。城。を。も。て。此。底。し。ひ。き。ゆ。し。居。り。計。し。を。
生。路。を。得。し。相。言。ひ。た。い。佛。神。の。力を。頼。り。ぬ。わ。く。わ。く。己。が
此。し。ひ。り。さ。を。勵。り。ぬ。十。死。一。生。の。難。を。凌。ぎ。て。生。路。を
得。り。ぬ。又。戦。場。し。赴。き。い。ん。い。う。が。名。お。か。り。た。ま
く。基。の。子。れ。見。ゆ。り。明。く。見。て。い。し。事。す。は。あ
る。事。な。い。基。を。打。り。ぬ。基。様。し。地。有。し。目。と。十。文。字。す
り。三。百。六。十。一。回。し。限。り。た。り。死。ゆ。ぬ。是。を。打。り。ぬ。死。ゆ
ぬ。い。ち。ち。も。静。し。案。し。ぬ。上。の。先。の。と。明。く。見。ぬ。き
り。戦。の。乃。は。さ。し。限。り。た。り。基。様。の。上。を。打。り。ぬ

かゝる事と云ふ事な。活物の人と大勢あつてひるひもあつて
志も火急かりきざりて作。是よりしていふ一より
兵法は云々氣風角と並厭勝の及有しり。是皆
流弊の心と一ツして其きざりと勤志むる古今一轍なり。
理学の過といつても皆小量に成。蟹乃甲に似て定を
わぶとく。何れも皆己の身ひらうと云ひぬ。聖人の
乃ハ國天下を治めんとす事と云ふのはうら志むるを
偶治と平天下の業と論りて其理を知。心計なり。
是と云ふ上は心付不なり。甚て人智人カれなき不

中天命万上の事も理をきりて行ふは。是より
して聖人のト並と出用りてハ命兵と云ふ。此學問
功移り。次第に大量に成りて。涉疑ひ有る友。まづ担増太
く。毎に心得りて成ぬ。云々

一世にふ武士道と云ふ一物。古く書に有し。此君との
乃ともかむい人を治むる乃とも成す。此は治むる。何れ
道理を尸化のり云々。此天下を治めり。乃ともかむい。此は
老莊の自然。申韓の刑名。元より此を治むる道。此は
が農圃。盧扁の醫術。郭橐駝の種樹。柳子厚の都料通

類山後之文成。世上一の武乃くも。多く六残ふ
之時か。名物の筋を流れて軍者杯のり。元よりふ
と。活め。士卒を引廻し。卒人の力をもて。た。た。た。た。た
中。も。わ。け。然。九。聖。人。の。道。ふ。た。ら。く。何。も。と。海。り
下。し。其。道。を。論。し。あ。ま。ら。ず。人。を。論。し。あ。ま。ら。ず。
古。し。彩。釣。弓。氏。正。成。等。より。也。く。八。任。玄。謙。任。の。り。ま。て。
其。人。の。順。否。得。失。を。明。か。り。事。に。た。た。ま。も。さ。ら。し。り。一。作
節。も。押。り。知。り。ま。す。古。く。書。く。有。り。の。た。く。云。望。り。心。下。
海。子。呉。子。韓。任。諸。葛。孔明。李。靖。の。類。ハ。此。方。も。も。兵。家。

若。流。ハ。是。の。等。ハ。所。々。と。さ。ひ。り。の。り。な。され。も。け。人。も。別
武。乃。く。少。事。と。さ。ま。り。の。ハ。事。の。起。り。吾。國。の。俗
流。く。又。武。二。乃。く。何。有。り。ん。是。ハ。中。古。より。云。あ。武。家。を
家。別。ま。り。云。あ。く。何。の。藝。と。文。乃。く。是。く。武。家。に。付。て
以。藝。を。武。乃。く。名。付。に。俗。流。と。し。事。に。待。敵。も。馬。も。藝
也。り。以。文。音。有。り。も。何。れ。も。名。付。な。り。何。れ。も。作。れ
た。武。官。家。を。世。に。し。ら。れ。一。種。の。風。俗。自。然。に。あ。り。ん。
丈。抵。勇。と。尚。ひ。死。と。い。ふ。は。恥。と。知。り。兵。を。重。ん。じ。む。く
きた。あ。り。の。り。と。男。子。れ。せ。ぎ。事。に。ま。り。ん。源。平。の。時

分は通るにほろきより世久しく戦ふにかりりぬ。世々軍
中の法令をひてふと治る。其後天下一統しては。何事も
文盲を古と稽へ文を返す事と志す。古平の今も
ありて。友儀も軍中の役割を其儀に用ひ。政治も軍
中の法令を改めぬ。是よりして武威をひてひらきつけ。何
事も簡易徑直なるゆゑを貴ひりしを武家の治め
きて。是吾邦に古より傳りぬ。武名にゆかり。文盲なる
とありぬ。そのつたに。軍者杯より者儒書のつと
そふ。乾元剛健の徳なり。つたに。事とこれ。武家。戦國

名の上上附會し。或は武名にゆかり。神名也。ひ。向
よ。建まらぬ。何れ。小。晚。さ。あ。ま。き。や。り。つ。く。は。た。
是皆戦ふに事也。源平時代。つたに。事。つたに。事。
つたに。治。世。久。及。續。き。風。俗。移。り。ぬ。結。句。は。源。平。の
時。分。の。武。士。の。風。俗。に。表。し。て。只。戦。ふ。乃。時。附。源。平。の。風。俗。
の。つ。た。に。世。久。及。續。き。新。詮。武。士。の。字。に。戦。亂。也。訓。の
事。是。れ。乱。逆。を。静。め。武。士。の。つたに。事。の。つたに。事。を
安。ん。ん。心。より。乱。逆。を。静。め。ふ。と。を。安。ん。ん。心。より。是
則。聖。人。の。乃。の。一。端。と。し。つたに。事。の。つたに。事。を。用。ひ。乱。る。時。を

武と用ひ、只一箇の乃と。乃と文通武なる事ハ、
人乃生付ハ、氣質ノ偏ラレハ、文徳武徳有レシハ、官職モ
當リ別レハ、文官武官有レシハ、地頭侍大抱ノ類モ、武友
トシテハ、武徳有ル人トシテハ、家職モハ、杯ハ、文官ガハ、又
注ガテ、難叶ハ、平士ノ類ハ、職掌軍伍ノ偏ラ、上卒
也。平生ノ時モ、侍衛宿衛ノ友トシテハ、古ク書、
士君子トシテ、類モハ、多シハ、志ハ、
杯ノ、己ハ、武士ガ、
學問モ、
上福

軍法ノ徳智と云々。武藝モ、
後ハ、
先其位して、
の奉ハ、
悉ク去着キ、
風俗とガ、
用ハ、
成事ハ、

の上。理窟づけくわくをくく之り。新とひて大と改ひ
くわくをくわく。

一 治政事。器もき。人しり付て一生をて送人くわ
く荷板の友。我中。并。世に有し。禅法。及。教。朱子
学。陽明。学。托し。内。心。法。を。取。納。ら。法。の。付。け。心。を。愛。も
恐。も。物。に。惑。も。少。く。成。り。成。術。お。も。有。く。思。石。代。又。太
く。お。か。も。子。進。く。小。量。の。人。し。身。心。を。作。り。善。行。
術。も。有。く。未。く。生。業。に。り。法。波。也。知。り。其。後。先。王。の。教
し。は。孝。悌。忠。信。を。中。庸。し。徳。行。し。て。民。の。務。じ。べき

事。し。し。有。し。上。た。る。人。の。そ。子。子。君子。く。道。も。是。と
去。其。の。し。し。し。し。し。し。大。乃。を。その。事。し。て。終。
け。外。に。何。も。子。進。記。事。の。思。考。は。な。り。心。の。憂。も。恐。も。惑。も
為。く。成。心。の。安。樂。が。事。は。天。命。の。安。ん。し。し。し。外。に
先。王。の。道。は。何。も。な。し。先。王。の。道。し。し。し。上。は。是。し。し
外。に。何。も。な。し。事。し。し。し。思。考。は。然。れ。小。量。の。人。は。何。も。な
す。一。己。の。し。し。思。ひ。の。た。り。ち。い。く。持。へ。と。持。て。有。し。し。し。
己。の。智。か。し。し。し。一。文。一。を。事。跡。は。子。進。記。事。と。好。む。如
し。し。し。思。考。し。し。し。し。し。小。乃。大。世界。の。事。あり。是。と。好

じ人多うた。是皆小量のものがなからぬ。先まじつても
 かくのおく此の類に有し。聖人ともおなじ見識の世
 間こそえられぬ。物事ハ不^ふ修^{しゆ}事^じに又も色く相^あ互^いし
 得^えるも有し。是と多や一戸は料^{りょう}等^{らう}も有し。後^{のち}
 を必^{かならず}天下^{てんか}と治^ちめり。たゞ類^るし小^こ乃^{のち}と因^よひ共^{ども}害^{がい}多^{おほ}きま
 にはた下^{くだ}りしもの一己^{いつこ}の好^{この}みよし。一己^{いつこ}は事^{こと}に
 職分^{しやくぶん}家^け業^{ごう}とさく意^いし。孝^こ悌^{てい}忠^{ちゆう}信^{しん}とさく失^しひあらず。
 不^ふ苦^くのしうた。其^{その}外^{ほか}一^{いつ}體^{たい}も。學^{がく}得^えて皆^{みな}一^{いつ}種^{しゆ}
 の器^きをりして治^ちふし。及^{およ}び人の心^{こころ}のいひからず。茶^{ちや}湯^{たう}の

死^し棋^きを競^{けい}踏^{たふ}鞠^くし類^るハ無^な量^{りやう}なり事^{こと}ハ尤^{なほ}号^{ごう}とせぬ
 やじり勝^{かち}まりし事^{こと}の有^あり。想^{しやう}ト人^{ひと}ハたれれぬ
 物^{もの}を心のせむれぬ。心^{こころ}をたれぬ。小^こ量^{りやう}
 かりん孝^こ悌^{てい}忠^{ちゆう}信^{しん}を。其^{その}外^{ほか}ハ好^{この}みと何^{なに}せり。心^{こころ}に
 け方^{かた}より淨^{じやう}定^{てい}めり。小^こ量^{りやう}し人の心^{こころ}を安^{やす}んたるとき
 り。其^{その}外^{ほか}ハ無^な修^{しゆ}事^じに。何^{なに}もかまおし流^{りゆう}義^ぎし
 ぬ。及^{およ}び相^あ互^いし。心^{こころ}に治^ちめりて人の心^{こころ}を淨^{じやう}
 ぬ。心^{こころ}を不^ふ修^{しゆ}事^じに。心^{こころ}を

一 學問は心のいひる事なり。心^{こころ}に治^ちめりて書^{しよ}中^{ちゆう}そハ修^{しゆ}事^じ

不中事也。是境投轉^レ義從來何方也一切^レ以^レ入
 歲計故也。其元ハ多年の内深志^レ取及^レ以^レ何^レ所望^レ今更
 涉谷^レ波迷惑也。先ハ是境より傳授^レ難成^レ事是事理の
 当然也。依是孔門^レ諸子も何^レ者^レ波後^レ學^レり^レ也。其の
 子細ハ甚門^レ入^レる^レ門風^レ事有^レ。故^レの事^レ其
 凡^レ衆^レ深^レ私^レより思^レ及^レさ^レり^レ也。後^レ古^レ師友^レより事
 有^レ。師教^レよりハ朋友の切磋^レも知見^レを博^レめ^レ學^レ問^レを飛
 事也。當時大名^レ之位^レの權^レ古^レ時的^レ事^レ也。人^レ紀^レ師^レと^レい
 付^レ學^レ事^レ也。位^レ者^レ以^レ朋友^レ也。依是^レ何^レ處^レも^レ不^レ及^レ

成^レ就^レ事^レ是^レ明^レ証^レ也。朋友^レと^レ交^レり^レ門^レ風^レと^レ深^レり^レり^レ是^レ才^レの
 事也。然^レま^レハ是^レ境^レを^レ傳^レ授^レ難^レ成^レ事^レ也。然^レハ内^レ深
 志^レの^レ事^レ也。其^レ師^レ友^レの^レ代^レり^レ成^レ事^レ也。責^レて^レハ是^レに
 成^レ事^レも^レ不^レ及^レ也。依^レ是^レ師^レ友^レの^レ代^レり^レ成^レ事^レ也。依^レ是^レ書^レ籍^レ也。
 損^レ友^レを^レ違^レけ^レる^レ友^レと^レ違^レ付^レり^レ取^レ友^レ也。然^レハ損^レの^レ事
 也。書^レ籍^レハ固^レく^レ終^レて^レ也。内^レ深^レ志^レ取^レ及^レ以^レ何^レ所^レ望^レ今更
 涉^レ谷^レ波^レ迷^レ惑^レ也。是^レより^レ外^レ別^レり^レ師^レ友^レの^レ代^レり^レ成^レ事^レ也。依^レ是^レ何^レ處^レも^レ不^レ及^レ也。依^レ是^レ書^レ籍^レ也。依^レ是^レ心^レと
 依^レ是^レ心^レと^レ相^レ考^レ也。品^レ今^レと^レ考^レ也。宋^レ學^レと^レ依^レ是^レ心^レと^レ相^レ見^レ也。
 學^レ問^レの^レは^レ形^レ宋^レ學^レと^レ別^レり^レ一流^レ出^レ來^レり^レて^レ古^レ聖^レ人^レ乃

今更し至りたる教法は只此の。是をうすて此大早計
の如くしむるは。

一 学問は概宋朝より別一流ありし事。此不
審波水如く。文法は以て大学程朱く解大まきと述りし
こと。明德之二字大学より周卷第一義に於て支那傳
禹より明德遠矣と有し。又聖人而有明德と事有
し。是等ハ朱子明德く解とハ一向通ず事は。其
外詩經の内にも明德く字多有し。朱子く解と
通し。此相与理密と出付り。云四一問也。

し万友は先有傳有通と云はる

太是今との如く移り。定か解つては。依り子細と
す。吾乃の之程ハ堯舜より。堯舜ハ人君也。依り
聖人の道ハ古く國天下と治り通し。乃ち事也
尚の理も。天地自然の乃ちも。聖人の建立
成り。道といふは天下と治りは。相取人乃
教ハ專ら。其も風雅文采なり。相取。心法理密の沙汰を
考ら。事ハ宋傳ハ朱子を。捨て理密を先く。風
雅文采を。此捨て。此鄙く。天子く乃ち事と云

土

ゆるり。考及理を説く人と論りしを兼了はは。是より
注非邪正く争盛は然。議論一定して其の極しう作
事し成りぬ。何程字もとも知見のまに廣まり事なるて
す。只片にせしものこき事うは成ぬ。是皆友法の遠
ては。孔門の友といへ天地を遊ばぬ。其文章も宋儒の文章ハ
真しとてかきし。假名物にぬ。文章も鄙俚流うは成ぬ。
其の書籍の心を深りぬ。漢の三代の書籍ハ漢字物
より。此差別尚分ハ内合点新考あり。すをいふ入るの
は。其のたに深志なりを。

一 文字ハ中華人の云はる。日本の云はるハ詞のたらしむ

語有しり。且又中華人も詞ハ古今の語有し。宋

儒の注解ハ古云。古云ハ其時代の書籍を推したる

知事なり。後世の注解ハ遠多し。依り老莊列子も是有

り。但六經ハ及しり。詞源も其の合点と兼ぬ

漢字ハ。依り初字をた傳史記前漢書ハ類易解

少し多し。

一 同郷よりして。朋友聚りて今讀たり。東と

一 助 出学問より事あり。獨学の仕形ハ各点と世變

一 習りし者ハ各点あり。点付物の淋り経て各点乃淋

一 中事ハ各点し物ニハ。只目より各点と付垂りれ各点

一 一物不中ハ。苦勞と云へ作てくせと付物に云へ

一 一物ハ淋り不有し以れ返屈ト云ハ。只各点りて見行ハ

一 皆先より淋中事ニハ。

一 一待又しは習れハ只詞と似せしが然ハ。後より自然と移

一 物ニハ。

一 一存外ハ予を事先各点。各点審るべき事下ハ。

但士大夫の学問ハ。國君と輔佐して。政中各事と法
作。文武政務の才と波成物ハ為の学問ハ。此後之と
して云々

一 武末各善し事ハ。樂記にて淋りし事ハ。新法と

一 一各点ハ。各点しハ不各点ハ。各点湯武ハ優劣ハ論

一 一事ハ。後世儒者各の長き行へ聖人のよと評し。各

一 一各点ハ。而又其害ハ各点ハ。

一 一人未有自改者必也親。各点ハ。有ハ。礼を不候而各

一 一各点ハ。親ハ各点計りし事ハ。論行一各点と説

此不多の後傳、聖人乃教者、禮樂が事と不修の

故解遠い。

一 性、終、遠、先王制礼の意と読む、今日受用

し、為の讀、その意

一 涉文章、その意、皆宋學より直して、その意

なり

一 後漢を隨、不悞未熟、此の書、其用、成る、後、

仁齋、周齋、其の書、其の意、其の意、其の意、其の意、

其の意、其の意、其の意、其の意、其の意、

一 中、其の意、其の意、其の意、其の意、其の意、

其の意、其の意、其の意、其の意、其の意、

其の意、其の意、其の意、其の意、其の意、

其の意、其の意、其の意、其の意、其の意、

其の意、其の意、其の意、其の意、其の意、

其の意、其の意、其の意、其の意、其の意、

其の意、其の意、其の意、其の意、其の意、

其の意、其の意、其の意、其の意、其の意、

其の意、其の意、其の意、其の意、其の意、

教法身を分違不^レ了。私知見を聖人の言と令^レ然ん
んるが皆自己流^レすべからず。末学中^レの学ハ識見^{（しきけん）}並^{（な）}鄙陋^{（びろう）}を
程朱陽明吾心と周齋仁詠等の末叶と位^{（ら）}るる孔
子より甚^{（し）}愛^{（い）}ひ。たゞてう^{（う）}。佛者の学釋迦の法と凡
不用して。深^{（しん）}く法^{（は）}法^{（は）}日蓮と位^{（ら）}るるがこ^{（こ）}く^{（く）}。教^{（きょう）}古今
なく。乃^{（な）}も古今なく。聖人の乃^{（な）}と今日の必^{（かならず）}天下も亦^{（また）}う^{（う）}
事^{（こと）}は。亦^{（また）}く^{（く）}位^{（ら）}る^{（ら）}。聖人の教も今日の人も才性^{（さいせい）}と
成就^{（じゆうじゆ）}り^{（り）}の^{（の）}。是^{（こゝろ）}又^{（また）}分^{（わ）}は^{（は）}私^{（し）}知^{（ち）}見^{（けん）}の^{（の）}。古今通貫^{（つうくわん）}不^{（た）}して。
古聖人の道も教^{（きょう）}れ^{（れ）}不^{（た）}る^{（ら）}。乃^{（な）}も教^{（きょう）}も^{（も）}善^{（ぜん）}く^{（く）}天下の

人^{（ひと）}の^{（の）}私^{（し）}知^{（ち）}見^{（けん）}の^{（の）}事^{（こと）}も。天下の人^{（ひと）}ハ愚^{（ぐ）}不^{（た）}肖^{（しょう）}多^{（た）}く^{（く）}噴^{（ふ）}智^{（ち）}
かく^{（く）}の^{（の）}是^{（こゝろ）}又^{（また）}古今の移^{（うつ）}り^{（り）}なく。法^{（は）}ハ古^{（こ）}聖^{（せい）}人の^{（の）}教^{（きょう）}
も後^{（ご）}儒^{（じゆ）}の^{（の）}私^{（し）}知^{（ち）}見^{（けん）}の^{（の）}六^{（む）}法^{（は）}の^{（の）}決^{（けつ）}ら^{（ら）}ず^{（ず）}若^{（わ）}かり^{（り）}事^{（こと）}
明^{（めい）}の^{（の）}理^{（り）}の^{（の）}六^{（む）}法^{（は）}の^{（の）}私^{（し）}知^{（ち）}見^{（けん）}の^{（の）}人^{（ひと）}ハ今^{（いま）}得^{（え）}成^{（じやう）}事^{（こと）}を^{（を）}古^{（こ）}聖^{（せい）}
人の^{（の）}乃^{（な）}も教^{（きょう）}も^{（も）}皆^{（みな）}さ^{（さ）}も^{（も）}私^{（し）}知^{（ち）}見^{（けん）}の^{（の）}乃^{（な）}も^{（も）}甚^{（し）}愛^{（い）}ひ^{（ひ）}と。甚^{（し）}さ^{（さ）}も^{（も）}又^{（また）}
私^{（し）}知^{（ち）}見^{（けん）}の^{（の）}理^{（り）}不^{（た）}知^{（ち）}り^{（り）}も。自然^{（じぜん）}と^{（と）}風^{（ふう）}俗^{（じやく）}移^{（うつ）}り^{（り）}人^{（ひと）}の^{（の）}心^{（こゝろ）}も
直^{（ち）}り^{（り）}て。必^{（かならず）}天下も亦^{（また）}う^{（う）}。又^{（また）}一人の上^{（かみ）}も。風^{（ふう）}俗^{（じやく）}の^{（の）}移^{（うつ）}り^{（り）}
より自然^{（じぜん）}と^{（と）}知^{（ち）}見^{（けん）}各^{（かく）}別^{（べつ）}の^{（の）}ひ^{（ひ）}け^{（け）}り^{（り）}て^{（て）}才^{（さい）}性^{（せい）}と^{（と）}成^{（じやう）}就^{（じゆう）}り^{（り）}事^{（こと）}
に^{（に）}。是^{（こゝろ）}聖^{（せい）}人の^{（の）}道^{（みち）}聖^{（せい）}人の^{（の）}教^{（きょう）}法の^{（は）}妙^{（めう）}用^{（じよう）}の^{（の）}。是^{（こゝろ）}故^{（ゆゑ）}と^{（と）}今日^{（けふ）}の

孝同ひきりつらう只文章と今得るものより歩は。文
章と今得るもの右の詞殊る。古聖人の乃も亦もさ
らぬ。詞の上とて並見して外さず事。只異曲入乃
右の詞と今得るもの。文章と今得るもの事六條は。
以

一 再行ゆめし越後也知。孝同のは形乃知し候。先達
し導かしくして、路路と誤る事。及示し疑義
よりりりり。義友もゆめしが候。荒角思先存念
と此同なり。夫れも今合点なく。此工文と如

了りし事。其文章と今得る事八條。其意
よりりりり。今時し講釋孝同。其理し辨
を以て云廻し。聞ゆ所よりりり。其疑付りし。
其本文よりりり。文字し付添り。稗し着中し。其
ゆめし書籍よりりり。殊るもの。其等し
不。其長し書と自見し。其不。其等し。其
かりし事。其意も其意も。其大。其八條目
中事。其しりり。子細ハ在明明徳在親民在止於至
善よりりり。有し。在格也。其後。有し。其格也。

條とて決り事^二は。吏に物格而后知至知至而意滋と
言ふ天下平と。順流直下^一の文勢^二は。猶其^一格物^一の
條^一と事^一決り。以上^一の誠意^一正心^一脩身^一等^一の工夫^一を
事^一し。是^一又^一而^一修^一見^一は^一附^一也^一。又^一明^一以^一德^一
於^一天下^一と云^一注^一。使^一天下^一之人^一皆^一有^一以^一明^一其^一德^一と有^一不^一
心^一と平^一也^一。又^一天下^一之人^一皆^一有^一以^一明^一其^一德^一と有^一不^一
有^一金^一事^一九^一不^一存^一也^一。注^一。朱^一子^一の^一注^一も。既^一に^一大学^一の
學^一と分^一て。大学^一の^一庶^一人^一の^一悉^一其^一の^一心^一と云^一注^一。亦^一に^一
至^一りて。又^一天下^一之人^一皆^一有^一以^一明^一其^一德^一と有^一不^一
至^一りて。又^一天下^一之人^一皆^一有^一以^一明^一其^一德^一と有^一不^一

也^一。以上^一の等^一の^一不^一疑^一の^一言^一也^一。是^一又^一孟子^一の^一學^一校^一
事^一と注^一也^一。人^一倫^一明^一於^一上^一庶^一民^一親^一於^一下^一と有^一作^一
猶^一其^一親^一民^一の^一新^一民^一と不^一改^一と云^一注^一。其^一の^一新^一民^一の^一文字^一を
書^一行^一し^一而^一革^一命^一の^一事^一也^一。大学^一の^一教^一の^一平日^一の^一事^一也^一。
是^一等^一の^一不^一疑^一其^一言^一也^一。又^一格^一物^一の^一二^一字^一と窮^一到^一事^一
物^一の^一注^一有^一也^一。是^一の^一易^一の^一窮^一理^一の^一文字^一と格^一物^一
て注^一し^一た^一也^一。格^一の^一到^一也^一物^一の^一事^一也^一。格^一の^一到^一也^一。又^一
而^一の^一格^一の^一窮^一也^一。窮^一の^一窮^一也^一。窮^一の^一窮^一也^一。窮^一の^一窮^一也^一。
注^一。本文^一の^一窮^一理^一の^一二^一字^一と付^一添^一て^一義^一と生^一じ

皆抑ふ。此後疑義ハ多し。且易有窮理ハ
聖人易を作すを讚歎したる詞也。全く今日学
者の上事トハ言ひ。心を平すを也。賢人成作。
今日天下に理ハ窮盡する物ナシ。是皆人の
以事と説て人と強ひて中物也。是又三綱頌八條目
に委細カク終行は形。何して大學ニ才有六経
一而も言ひ。是等不疑ハ言ふ。是又程朱
之学同。理氣を分ち。天理人欲と分ち。其理氣質
と分ち。りかハ言ひ。皆肝要カク事也。何して

古く聖人ハ説不事。果して程朱ハ説是。古く
程朱ハ孔子ハ事分明。又古く聖人ハ
法也。程朱ハ説別一流。中物トハ言ひ。
論ハ至り。多クハ時代ハ不同カク。是皆
後世利口。徒々事。是ハ古書ハ熟
古今之差別ハ事。事トハ事と云ふ。古の
聖人ハ智ハ古今と貫通して。今日極
の弊と明。其教ハ利益
上古も末代も抑へて。皆自ら言ひ。在り。聖人ハ

一々理氣本然氣質天理人欲等皆古聖人之教
 事一也。修行は仕形。知行を分ち格致知識
 表正心持敬かして。是又古聖人之教。事一也。
 聖經のしるし。了蔵格致を教ふ。たすは危殆也
 して入道なき。格致を思ふ。只先本文計を讀く
 中心得。置。左傳史記漢書。左と深き義理
 無事計。書を此格致を成る。しるし。左傳格致也。
 文字。此格致なり。文而。義理。此格致なり。其後六
 経と格致を成る。本文計。しるし。格致也。其後六

老の懺悔物。了る。愚老の修行。 寔廟の心教
 に。其子細。 寔廟の命。して。小姓。荒。四書。又。經。素。讀。
 忘きを吟味。仕。夏。日。永。く。毎。日。友。人。相。對。し。素。讀。と
 させて。承。り。の。に。始。の。經。の。忘。き。と。各。々。す。は。九。毎。日
 朝。六。時。し。夜。の。四。時。と。し。事。を。合。事。し。方。丈。小。用。し。方
 針。針。を。ま。り。る。後。は。疲。果。吟。味。し。心。も。た。り。り。り。
 讀。の。人。只。只。し。修。行。讀。す。は。波。吟。味。し。を。承。る。只。偶。然。と。書
 物。を。讀。め。居。す。は。先。き。八。巻。と。返。せ。し。事。八。紙。と。返。す。
 讀。人。と。吟。味。人。と。別。し。成。本。文。計。を。年。月。之。久。を。讀。書。し

中。此の経をよむるに中又沙を。見るともかゝく讀むる。
うつゝと見居る。何れこゝろに疑はれ来りし。是を
種し。只今の經學の大形世物。事台点集の
いふ。注ふに早く會得し。たゞ益ありし。是も
自己の及ぬ。方々事。此辰愚老。憾悔物。依
支那門弟子の及。皆其趣。但し。吾等。博く書と
見ぬ。たゞ。經書。中又沙と詠。會得。沙
博く書と。晚。多。必。り。て。ハ。いつ。と。朱。注。を。晚。が。れ。作
舊見。る。も。色。中。乃。友。也。博く外の書を見り。何書。

不^レ干^レ涉^レ事^レ。物^レ。一^レ思^レ。石^レ。大^レ。年^レ。用^レ。一^レ。用^レ。一^レ。事^レ。有^レ。
。思^レ。ぬ。不^レ。一^レ。物^レ。一^レ。思^レ。ぬ。大^レ。年^レ。用^レ。一^レ。用^レ。一^レ。事^レ。有^レ。

一 道ハ事物當行ノ理をも。天地自然ノ理をも。聖人ノ建立成行ノ理をも。天下を治ルハ何れを。事ハ不審。汝知ル。宋學ノ流。以。先。天地自然ノ道。事ハ老莊ノ説。有。一。毫。髪。の付。亦。なき。天地其。何。ノ。立。て。誠。向。上。至。極。相。分。ハ。其。説。の。至。極。を。諸。人。の。名。を。破。却。汝。一。事。也。其。理。ハ。汝。不。知。也。物。又。事。物。當。行。ノ。理。也。天地

自然くたゞ不見と底く帯りて説出たれ説くは
是皆自信自信なる事厚く。古聖人を伝ふる事厚き不
より生きたる説くは。宋儒く格物致知く修徳として
此事をかく所の處きとも。其よりたれの處き皆くも
おより極め出して。是即聖人くたゞ説うかして不
是能見なり。子あく見識殊をさるく随ひて始め
かくるべし。此の事の後たれの事と云つる事
のいふも。この處きとも云つる也。早未く欄柄もく入
やうと思はる。此見識を生じたる事なり。聖人くたゞ

甚深廣大して。中く學者く見識して。有る處き
皆の乃理と見ゆ事としていふ事也。志のつと我知り
顔く成程をかく所の處き皆くも。聖人くたゞ
了印可了印可をゆと心根。誠く推糸く玉極く云つる。其
上聖人の乃をこが心のつと合せて成程をかく所の處き
皆く清慕くきはめり時。後く己が心く合たる不計を
計して。己の心くむと思ひぬとを棄つ事。成程なり。此
聖人くたゞなり。皆く己の能見く成中事なり。かく乃
こと此の見識長きく随ひて。見識清き迫切なりて。

聖人なるは甚深廣大なる節六日く遠さかりし。
 果は言慢甚成成行事なり。其は事物尚行く程不
 測。廣く何の事も用ひらるる深し。茶湯立花和歌等
 道剣術。或は小笠原く立廻りにも。上下の着なり。大小の
 扱振りも。是はかく何の事も苦。それなれた何の事も苦なり。
 能位位のかの何の何の物なり。是皆聖人なるは何の
 事なりや。事ハ移りても理ハ同一事ハ料管して。亦は
 かり敷きを聖人なるは身なり。亦ハ誠ニ杜撰く甚成
 と云ふ事。愚意杯の心ハ只深く聖人を信して。たし

かく有る事と家心ハ思ふ事。聖人なるは甚成
 めて思ふ事なり。その何の事もと云ひ何の事。是は行ふ事。
 此ハ熟して後。其は天性成。其は天性なり。地路を行
 くと成りしなり。且又道ハ聖人ハ建立志むる事なり。
 先道ハ内なり。おも立たる事ハ之倫なり。又倫ハ内ニ父子
 之愛ハ天性なり。兄弟之將と云ふ事ハ。幼少より父母のひ
 物ハあるゆへに存せ。友が此者ハ弟ら兄弟を敬む事
 事ハ不存なり。夫婦ハ倫ハ。伏羲ハ立むる事なり。洪荒ハ世
 只畜類ハ如くして也。其は君臣朋友ハ存する事ハ。

聖人^一之立^一也。所謂^一之也。人^一是^一を^一ね^一也。然^一大^一聖^一人
 甚^一深^一廣^一大^一の^一智^一と^一ひ^一て。人^一乃^一生^一れ^一つ^一き^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 ひ^一て。是^一も^一人^一間^一界^一と^一い^一ふ^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 今^一往^一文^一倫^一た^一ま^一く^一も^一大^一作^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 也^一。生^一つ^一き^一た^一る^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 神^一農^一の^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 事^一。黄^一帝^一之^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 一^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一

廣大^一之^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 何^一より^一德^一と^一い^一ふ^一廣^一大^一が^一り^一天^一地^一と^一い^一ふ^一。天^一地^一日^一月^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 恩^一と^一人^一知^一ら^一ず^一ん^一。德^一合^一天^一地^一曰^一帝^一と^一い^一ふ^一是^一等^一德^一
 と^一い^一ふ^一。是^一等^一と^一い^一ふ^一思^一右^一入^一る^一道^一の^一當^一り^一の^一理^一が^一り^一
 也^一。舌^一の^一長^一き^一修^一く^一聖^一人^一の^一可^一と^一い^一ふ^一也^一。然^一大^一聖^一人^一
 之^一思^一右^一の^一當^一り^一也^一。也^一人^一之^一性^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 子^一思^一右^一性^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 也^一。也^一人^一之^一性^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一
 也^一。也^一人^一之^一性^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一の^一相^一慈^一建^一立^一玉^一

節目と立玉の教と云ふ。國天下と治りて教と
りし先名目し相遠し。六經論議し曰く事は。宋
儒の例之理を以て。治めも身竟教也。乃理を以て推て
つひたの口上し。理の國の中振られ。宋儒の理を以て
相し。古書は事は。教と云ふ。ついで事と對
し。教と云ふ。又天下國家と治りて位を以て
ついで事と云ふ。是又宋儒の理を以て推て
ついで事と云ふ。先我道一元祖の堯舜也。堯舜は天子なり。史
より後聖人稱し。禹湯文武周公也。何ぞも皆天下

の教と治りて人なり。孔子は道と稱し。玉の人也。故に
聖人し道に專天下の教と治りて。禮樂刑政は
皆道なり。論語は子游武城。宰予は弦歌の聲を以て
を孔子笑ふ。子游君子學道則愛人。小人學道則易
使。予は之を以て。分明に樂し。之を以て。孔子
し直弟子を名目し。遠く有る。宋儒の注解を以て。
は道字の所なり。朱子は黙して過され。五倫の
物も。是れ立玉の天下の平治なり。聖人し立玉
なり。聖人し。之を以て。天下國家平治。爲る。建立

かこれたる事なり。脩身事し有之なり。身脩まじらざれば。
下尊信せざると乃行これざらん。君子脩身なり。今日し
学者も此不より見識を生じて。聖人も乃天下の家
を治むる道とす。不より見聞六六經の掌と指すことなり。
志あり。後世し信者見識低く器量小く。何れも我
身一つし思ひおこなれ。心法理空しく沈墜し成行。今日し脩
行と以て聖人なり。んし求む。聖人も成得ぬ。天下
國家の治るる治まらし思取らり。事ハ移遷大佛老の
意地おぼしめ。釋迦ハ乞合り境界を。家もかく妻子もかく。

もして國天下も持守身れ其乃中し我身一つしものなり。
是等し不聖人し乃之大敗しかれりなり。帝嘗て六
徳を以て天下と治む。堯舜し乃りて始て道と建位
玉つるなり。孔子も祖述堯舜又書経も堯舜より始むるなり。
亦乃し元祖たる也。堯舜も徳を以て天下と治む玉つる
なり。道の建立し及たざる事也。聖賢が紀世しとも。此乃傳
たる時ハ聖賢在世のころ天下國家平治がと成るなり。
と工夫しして。建立し玉つる事なり。禹湯文武周公が継
て脩補ししる事也。是よりして孔子も學ぶ玉つるなり。

道六知り玉ふ也。宋儒六只德を以て天下を治ひの事計を去
得して。道六子物と云ふ也。是六くして孔子の好まむ此玉
ひ。博く学ひ玉ふる。其解不明白。或六謙河と云ふ。或六学
者と勉むひの語採まざる。或六重なり也。是己が意を以て
聖人を量る。聖言六真實なるを不知也。士女更たるも。
君を輔て國天下を治ひの事計を去る人なき也。聖人の乃
と知るべき事ハ。戸^ま漏^ら識免^さ免^さかたりぬるも其学ひ也。
只我身ひつとを佛も聖人もあらずといふ所をかり抱き此
成事^{なり}すハ。事^{なり}して思^はふ。其上聖人六成得^{なり}六國天

下^はその^{なり}治^まる^{こと}といふ。君と輔相^{なり}也。其君は聖
人六成得^{なり}と思^はふ。年も老日も暮れて。國天下六何れ
の日ふ^{なり}平作^{なり}も。宋儒有^{なり}作^{なり}而無用^{なり}といふ^{なり}機^{なり}也。其
学^{なり}は誤^{なり}り出^{たり}る事^{なり}也。適^{なり}り^{なり}不^{なり}なり。然^{なり}も思^はふ
べき成^{なり}也。早竟國天下を治^はひ仕^はる^{こと}なりといふ^{なり}事^{なり}も
嫌^{なり}ひ心根^{なり}。禮樂刑政を粗^{なり}迹^{なり}と見^えて。乃^は六^{なり}一^{なり}精^{なり}微^{なり}なり地^{なり}
と不^{なり}病^{なり}折^{なり}也。道六精粗^{なり}もかく本末^{なり}も有^{なり}。一^{なり}以^{なり}貫^{なり}之^{なり}。然^{なり}も
精^{なり}を貴^{なり}令^{なり}粗^{なり}を賤^{なり}も。佛老の緒^{なり}條^{なり}に^は六^{なり}不^{なり}大^{なり}切^{なり}分^{なり}せり也。
一 宋儒古言^{なり}を失^はりても乃^は理^{なり}古今一致^{なり}と云^ふ。此^は乃^は理^{なり}

し玉極しん。古云を失ふ本文義理遠い。本文義理
遠りを及理一致しん。何すり。顯負さるなり。

一 五身之書と讀むなり。傍家の経緯し如く致したるが故
に。中。夫の何れたるを成し。直讀し成す。返りて成す。
物に三多あり。傍當り一難あり。思ふに他をなれり有
り。乃云点を注れい分そ。此等同一つて事も同事の
有りし。只歴史又ハ又雜俎致し物とも。又ハ醫書兵書
し致しとも。何とも老角漢易き物と出典の所が注
せられい。

一 五代一覽と真字ニ出せし中。後つら成り也。まもくしてを
り。たらく先歴史也。後つら成り。歴史也。覽なり。只今し
通し材本とて真字ニ直し。何し。益も有し。りあり。

一 宋學と出せし成り。第一讀書なる。又文章の
概。經學なる。概。此人抄る。此。四害有し。第一讀書
し。為し。此。想書と見。上代し。上。見。上。上。
代り。唐朝と。朱子し。新注なり。宋朝も朱子同代り
書。新注を不用書多し。物と朱注して經書と
見。至。此。外。此。經書と。此。此。皆義理遠なり。

此書六字、字と交成りぬ。唐宋以前、書務淋瀝下りぬ。
是讀去し爲し害也。第二、文章し爲し中ぬ。文章叙す
議論し二体有しぬ。宋儒し書者皆議論と叙すや、
文章ハ叙事を第一とけぬ。叙すし体かき、
宋儒し文章ハ真そかき、
詞ニ風雅を基
陋友文字しぬ。是ニ此熟しぬ。甚、
かき、
文章ハ書不立ぬ。是
文章し爲の害しぬ。第三、
古云と失りぬ。經書之文、
理氣天理人欲等し

付添有しぬ。聖人し乃し一房の皮膜と隔ぬ。然、
儒し學ハ古聖人し書と文、
程子朱子何れも聰明特達し人し。古聖人し之
と、
揚き、
求む事。轉と南し、
し爲の書しぬ。是等し子細を以て損友し、
を見識も定まり。學問も、
不苦事しぬ。た、
宋儒し書は

嫌ひし由有りて之也。今程朱執着おれぬ之かく之也下は
こそウ在也。宋儒く程朱は此のうの人。是非邪正さ
別つて成行。地毎二處をよりすことと記し改したる事と
好む。その言慢甚敷怒多く成り抑し。夙雅文才しの
ひやかり事、嫌ひ二成行。人柄も成り成り。世上た。多
ウ在也。山崎清見く人柄も大形に付て之也。是そ之の思
成而已そも之也。元朱其学流く偏りなり出たり
事そ也。世上そ俗人く中其。学同志たり人、人柄も成り
中り、の然りと之也。由あるは、玉政とも思ひ、成也

由家筋も由。一入宋学く害と由受不ら成行は成行也。
想して学問し及心を向うて立て。程朱といふより、思も
く程朱程二成行の思也。程朱、誰人もたし、直
程書を学ひしつて漸く、この程成行也。今程朱く、誰付
由学ひしつて、程朱不にて成行なり。程朱く、学も
通く、成行も学も、皆く学たの上と。程朱く、説書
友思も、其時、程朱と由用ひ、くウ在也。只今程朱と
信仰、成行、只人をめ、さし、抑し、愚老、門風、只、成
誰にも、たし、直く、古聖人、書り、見、用、き、作、と、説

途に仕。

一 詩書二經の今讀多岐半は一版に依り。孔子の時分詩
書より外に多岐に依り。論語孟子禮記等三引有るも。
外に書に中抑ハ言し。詩云書云と斗有るも。詩書と四学
に古代し学同そり其理重なりて存。但し新注が
で其えり言しり也。たゞ新注も成九本文し又面と
漲しりて成九の成九の成九。詩經朱傳。朱子し依り
内し不出來がり物に害も少く。書經新注。蔡沈の作
そに已ひもや此抑に。書經ハ旁通通考に中抑とつけ

世に傳はるるも。詩經ハ世本古義より抑ハ成九
和板し言し。せめて説約と成九世に傳はるるも。詩經ハ
新編宋儒の誤り大成支なり。詩勸善懲惡し
為り事。是大き成誤に。勸若懲惡し為り思ふに。
今少くは形分も有るも。詩を勸善懲惡し教を施
せしむるもさりとてハ同なり事。右聖人し智を
たぬのつり不事多し抑善なり。詩經ハ淫奔し詩
多く有之。朱注ハ惡を懲志し為り有るも。却て
淫を導く爲成下に。是等し亦くし中抑ハ成九に。

移り。其や昔公家の代々移りて、事明く相承れり。今日、政務く上明く、事明く、四書、史、思、錄等し、理
学の書、身見の人、事務く遠と有るなり。正生の胡椒丸
吞し、山、虎、子、地、も、席、も、唐、太宗、く、政、務、官、也
天下、治、り、の、驗、と、斗、米、三、濟、く、有、り、一、斗、の、米、と、濟、三、文、
賣、り、の、り、の、迎、年、米、價、少、下、直、く、其、武、家、町、人
百姓、九、困、急、く、介、り、の、遠、く、為、り、の、是、皆
制度、く、移、り、り、世界、く、模、倣、も、格、別、く、成、り、の、事、依
友、府、事務、く、文字、く、の、下、後、代、も、有、り、り、り、

一 詩作、其、代、々、体、也、有、り、上、代、の、詩、も、後、世、く、詩、も、同、
事、也、詩、作、も、其、之、の、詩、經、に、依、り、り、り、

一 楚辭、國、語、也、覽、之、其、中、一、版、也、其、介、呂、氏、春、秋、淮、南、
子、說、苑、家、語、戰、國、策、老、莊、列、子、也、後、漢、の、り、り、り、
智、見、を、廣、め、り、為、博、學、の、り、り、肝、要、の、り、孔子、も、博、學、に、
是、に、也、然、不、述、代、の、理、學、者、の、雜、學、を、も、總、り、り、聖、言、を、
背、き、り、り、只、日、蓮、宗、く、教、り、り、り、
愚、老、が、作、辯、道、の、り、其、中、の、辯、道、辯、名、也、有、り、り、
才、也、各、事、愚、老、の、り、病、病、相、似、の、り、務、と、絶、居、れ、暇、を、

有之是頃相認を以て以後多用し其は是程に細答

を成る事以て先付答と本年も得し此後其は食儀と

其工夫を付し其儀を其上一つと愚考中条の何れも

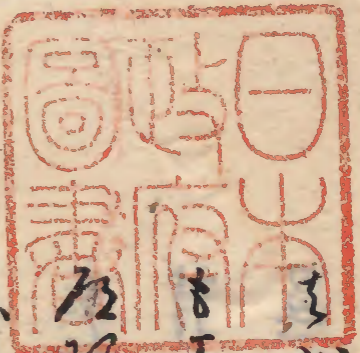
及び有し其思を愚考の筋に從ひて其の事も此儀可

と思はる。辨乃辨名が座し付書寫を致さる事

に在り高なる事の端を長し不入りし其の事

塾生根遜志伯修編録

答問書下終



享保十二年丁未五月吉辰

京寺町通二條南

江戸石町十軒店

野田弥兵衛

全 太兵衛

刊行

海保十二年十一月廿五日

...

...

...

13

